

モーツァルト作曲 歌劇「ポントの王ミトリダーテ」

190521

幕	場	場面	内容	分	主な歌う登場人物						聴きどころ
		序曲		5							
第1幕 65分	1	アスパージアを諦める ファルナーチェ	ローマ軍と戦争中のポントの王ミトリダーテは、若い婚約者アスパージアの安全を、二人の息子フェルナーチェとシーファレに託しているが、そこに王が戦死したという報告が入る。 次男シーファレはニンフェアに帰ったがその王宮で、アスパージアから「私を守ってください」と訴えられるので、彼女を守ることを約束する。	20	アルバーテ		アスパージア	シーファレ		フェルナーチェ	
	2		ファルナーチェは、戦死報告によりアスパージアに結婚を迫るので、弟シーファレと対立する。 ニンフェアの領主アルバーテが現れ、ミトリダーテ王は生きており、無事帰還したと告げる。 アスパージアは、実は弟のシーファレを密かに愛しており、嘆いて立ち去る。 ファルナーチェは、帰還する父に不満で、ローマ護民官マルツィオの寝返りの誘いに心が動く。	35	アルバーテ		アスパージア	シーファレ		フェルナーチェ	マルツィオ
	3	フェルナーチェの心変わりに苦しむ イズメーネ	ミトリダーテ王は、ファルナーチェの許嫁であるバルティア王の娘イズメーネを連れて帰ってくる。 ところが、息子たちがポントとコルキスの国を離れてニンフェアに来ていることを叱責する。 イズメーネは、王の命令で宮殿を案内されるが、許嫁ファルナーチェの心変わりを察して苦しむ。 ミトリダーテ王は、アルバーテに対して、戦死の報は息子たちを試すためであったと打ち明ける。 アルバーテは、王に、長男ファルナーチェの裏切りを報告するのでそれを知った王は怒る。	25	アルバーテ	ミトリダーテ		シーファレ	イズメーネ	フェルナーチェ	
第2幕 65分	1	アスパージアを愛し苦しむ シーファレ	イズメーネは、許嫁ファルナーチェの心変わりを嘆くが、彼からは「熱情が冷えたのだ」と開き直られる。そのイズメーネの訴えを聞いたミトリダーテ王は、弟のシーファレとの結婚をすすめる。 ミトリダーテ王は、自分の許嫁アスパージアと長男ファルナーチェが愛し合っていると疑い、シーファレを呼び、二人に王の怒りを伝えるよう言う。 シーファレは、アスパージアが自分を愛していることを知り、シーファレも密かにアスパージアを愛していたために、父への忠誠と愛の間で苦しむ。	35		ミトリダーテ	アスパージア	シーファレ	イズメーネ	フェルナーチェ	
	2	愛しあう シーファレとアスパージア	ミトリダーテ王は、ファルナーチェにローマ攻略を命ずるが、彼は従わず、シーファレが出陣を願い出る。 そこにローマ護民官マルツィオが現れるので、ミトリダーテ王は、ファルナーチェの裏切りを確信し、彼を捕える。 ファルナーチェは、裏切り者は自分だけではない、弟のシーファレこそアスパージアが恋する相手だと密告して逆襲する。 驚いた王はアスパージアを呼んで彼女の心を試し、彼女はシーファレへの愛を認めてしまう。 ミトリダーテ王は復讐を誓って去る。そして、残ったシーファレとアスパージアは二人で死のうと歌う。	30	アルバーテ	ミトリダーテ		シーファレ		フェルナーチェ	マルツィオ
第3幕 45分	1	イズメーネの国王への説得	イズメーネは、ミトリダーテ王に、息子たちへの慈悲を、アスパージアはシーファレの無実を訴える。 アルバーテがローマ軍の攻撃を告げ、王は出陣して行く。アスパージアのもとには毒杯が届く。 彼女がそれを飲もうとした時、シーファレが駆けつけて毒杯を奪って捨て、父ミトリダーテ王を助けるために出陣していく。	15	アルバーテ	ミトリダーテ	アスパージア	シーファレ	イズメーネ		
	2		ローマ護民官マルツィオが攻め込んできて、牢に捕えられているファルナーチェを救出する。 ファルナーチェは、良心の呵責に苛まれる。	15						フェルナーチェ	マルツィオ
	3	二人の息子の結婚	負傷して死を覚悟したミトリダーテ王は、シーファレに王位とアスパージアを与えることにする。 イズメーネが王に、ファルナーチェが、ローマ軍の船に火を放ったので許しと慈悲を乞う。 ミトリダーテ王は、長男ファルナーチェも許し、アスパージアとシーファレ、イズメーネとファルナーチェを結ばせ、息絶える。後継者は曖昧だが、高らかにローマへの抗戦を続けることを誓う。	30		ミトリダーテ	アスパージア	シーファレ	イズメーネ	フェルナーチェ	

(注)紙の音がするので、開幕中は、このA4紙をしまってください。